



雪若丸 情報

穂肥診断編

庄内総合支庁農業技術普及課 (TEL 0235-64-2103)

中干しをしっかりと行い、適期・適量の穂肥を！

1. 生育状況（6月30日現在）

雪若丸の生育状況（鶴岡市長沼、5月13日移植）

- 普及課調査圃場の生育は指標を超え、十分な生育量を確保している。
- 管内全体で見ると、指標に比べ茎数が多く、葉色が濃い圃場が多く見られる。

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
本年	43.6	804	9.8	44.1
指標	45.0	670	9.6	42.0
指標比差	97	120	+0.2	+2.1

- 葉色が濃く、茎数が過剰となっている圃場では、強めの中干しを行い、無効分げつを抑制する。
 - 穂肥まで葉色を40未満に落としすぎないように、中干しの程度を調整する。
 - 出穂期は8月2日、穂肥の適期（出穂25日前）は7月8日頃の見込み**※。
- ※普及課調査圃場（鶴岡市長沼）の幼穂の発育状況より予想。

2. 穂肥診断のポイント ～生育診断と幼穂確認で適期・適量の穂肥～

- 6月30日頃（葉数約9.6枚）の生育量に基づき、穂肥の時期・量を調整する（下表参照）。
- 生育が適正範囲の場合は、**出穂25日前に、窒素成分1.5kg/10a**を施用する。

生育量別の穂肥の目安

生育量	茎数		葉色 (SPAD)	施用時期と窒素成分量
	坪70株	坪60株		
生育不足	26本/株未満	31本/株未満	40未満	出穂30日前、1.5kg/10a
適正	26～35本/株	31～41本/株	40～44	出穂25日前、1.5kg/10a
生育過剰	35本/株以上	41本/株以上	44以上	出穂25日前、1.0kg/10a

- ※地力の低い圃場では窒素成分2.0kg/10aを上限として、早目に追肥する。
- ※穂肥前に補完追肥を行った場合は、補完追肥した量を、穂肥の量から減肥する。
- ※基肥、補完追肥、穂肥の合計量は、窒素成分8kg/10a以内とする。

- 幼穂を確認して、出穂前日数を把握し、適期に追肥する。

幼穂長 0.2mm ⇒ 出穂前 30日 幼穂長 1.0～1.5mm ⇒ 出穂前 25日

3. 中干し後から出穂期の水管理～間断かん水で健全な根の発達を促進～

- 中干し終了後は、走り水を行って足跡に水が溜まる程度とし、徐々に間断かん水（2日湛水・2～3日落水）に切り替える。出穂するまでは間断かん水を続け、土壌を酸化的にし、根の発達を促す。
- 出穂期前後は、水深2～5cmを保つ湛水管理「花水」に切り替える。

斑点米カメムシ類は「やや多い」予想です。畦畔の草刈りを徹底しましょう！
適度な水分補給と休憩で熱中症に注意しましょう！